

分野（領域）	統合分野	科目名	在宅看護方法論 I
単位（時間）	1（45時間）	開講時期	1年次 2年次 3年次
講師	外部講師・専任教員		
科目目標	1. 療養者の日常生活を総合的にとらえる。 2. 在宅で求められる看護技術を学ぶ。 3. 在宅において展開される医療技術とそれに伴う看護を学ぶ。		
【講義内容】 第2章 暮らしを支える看護技術 A 在宅で看護を展開するにあたって B 在宅で求められる看護技術 C 在宅における医療管理を要する人の看護			
【テキスト／参考文献】 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 第2章			
【評価】 学科試験 筆記；100点をもって満点、60点をもって合格とし、60点未満を不合格とする			

分野（領域）	統合分野	科目名	在宅看護方法論Ⅱ
単位（時間）	1（15時間）	開講時期	1年次 2年次 3年次
講師	専任教員		
科目目標	1. 在宅看護過程を展開していく際のポイントを理解し、その展開方法について理解する。 2. 事例を通して在宅で療養している対象の看護を理解し、在宅看護に必要な知識・技術を統合する。		
【講義内容】 第1章 地域・在宅看護の展開 第3章 地域・在宅看護の介入時期別の看護の実際 A 在宅看護過程展開のポイント B 在宅看護過程の展開方法 C 療養上のリスクマネジメント D 在宅看護における権利保障 第4章 疾患・状況別の地域・在宅看護の実際 A 在宅看護介入時期別の特徴 B 脳卒中をおこした患者の在宅療養導入の事例展開 C パーキンソン病の療養者に対する在宅看護の事例展開 D 認知症の療養者に対する在宅看護の事例展開 E 小児の療養者に対する在宅看護の事例展開 F ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例展開 G COPDの療養者に対する在宅看護の事例展開 H 独居の療養者に対する在宅看護の事例展開 I 終末期（がん）の療養者に対する在宅看護の事例展開 J 統合失調症の療養者に対する在宅看護の事例展開			
【テキスト／参考文献】 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実際 第3章 第4章			
【評価】 学科試験 レポート；100点をもって満点、60点をもって合格とし、60点未満を不合格とする			

分野（領域）	統合分野	科目名	看護研究
単位（時間）	1（30時間）	開講時期	1年次 2年次 3年次
講師	専任教員		
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の看護実践によってもたらされた患者の反応を客観的に捉えることができる。 2. 看護実践の根拠や看護によってもたらされた患者の反応が持つ意味を科学的に追求することができる。 3. 看護実践をわかりやすく論述することができる。 		
<p>【講義内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例研究とは ・研究における倫理 ・事例研究の進め方 ・事例研究の実際 ・看護研究のクリティーク ・看護研究発表および講評 			
<p>【テキスト／参考文献】 ナーシンググラフィカ 基礎看護学④ 看護研究</p>			
<p>【評価】 看護研究評価表に基づいて行う。 60点をもって合格とし、60点未満を不合格とする</p>			

分野（領域）	統合分野	科目名	災害看護		
単位（時間）	1（45時間）	開講時期	1年次	2年次	3年次
講師	外部講師・専任教員				
科目目標	1. 災害看護の基礎的知識を理解する。 2. 災害看護の定義と災害サイクルに沿った看護の基本的な役割について理解する。 3. 災害各期における救援医療や災害医療・災害看護のあり方を学ぶ。 4. 災害看護に必要な知識・技術を習得し、実践できる能力を養う。 5. 国際社会における保健医療福祉の現状を知り、国際協力について考える。				
【講義内容】 第1章 災害看護とは 1. 災害看護の定義 2. 災害と倫理 第2章 災害の種類と健康障害 1. 災害の種類と被害・疾病の特徴 2. 災害関連死 第3章 災害に関する法制度 1. 災害医療に関連する国の政策 2. 災害医療に関する法律 第4章 災害時の支援体制 1. 災害時の情報収集と伝達 2. 災害医療体制 第5章 災害医療活動の特徴 1. 災害サイクル 2. 体系的対応の基本原則 3. トリアージ 4. 応急処置・治療 5. 移送・搬送 6. 感染症対策 第6章 災害初期から中長期における看護活動 1. 初動時における看護活動 2. 医療救護所での看護活動 3. 避難所での看護活動 4. 応急仮設住宅での看護活動 5. 自宅避難者に対する看護活動 6. 復興期の看護活動 第7章 被災者と支援者の心理の理解と援助 1. 被災者の心理の理解と援助 2. 遺族に必要な支援と看護 3. 支援者の心理の理解と援助 第8章 配慮を必要とする人への看護 1. 支援を必要とする人への看護 2. 高齢者に必要な支援と看護 3. 障害者に必要な支援と看護 4. 継続的な治療が必要な人への支援と看護 5. 医療処置が必要な人への支援と看護 6. 乳幼児および子どもに必要な支援と看護 7. 妊産褥婦に必要な支援と看護 8. 外国人に必要な支援と看護 第9章 防災・減災マネジメント 1. 防災・減災・レジリエンス 2. 災害に備えた事業継続計画 3. 災害時の組織体制 第10章 災害時の国際援助 1. 海外における災害看護 2. 国際協力活動 第11章 目に見えない災害への対応と課題 1. 放射線災害 2. 新型コロナウイルス感染症					
【テキスト／参考文献】 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護					
【評価】 学科試験 筆記；100点をもって満点、60点をもって合格とし、60点未満を不合格とする					

分野（領域）	統合分野	科目名	医療安全		
単位（時間）	1（21時間）	開講時期	1年次	2年次	3年次
講師	外部講師				
科目目標	1. 看護・医療事故を自分自身に生じる身近な問題としてとらえることができる。 2. 看護・医療事故の防止に関する看護職者の責任と役割を理解できる。 3. 看護業務の実施に伴う種々のリスクを認識できる。 4. 看護を安全に提供するために必要な事故防止策を組織的・個人的な取り組みに分けて説明できる。 5. 安全な看護・医療システムの構築のために、一医療従事者として寄与する方法を習得できる。				
【講義内容】 第1章 事故防止の考え方を学ぶ A 医療事故と看護業務 B 看護事故の構造 C 看護事故防止の考え方 第2章 診療の補助の事故防止（Ⅰ）患者に投与する業務における事故防止 A 業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止（総論） B 注射業務と事故防止 C 注射業務に用いる機器（輸液ポンプ・シリンジポンプ関連）での事故防止 D 輸液業務と事故防止 E 内服与薬業務と事故防止 F 経管栄養（注入）業務と事故防止 第3章 診療の補助の事故防止（Ⅱ）継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止 A チューブ管理と事故防止 第4章 療養上の世話の事故防止 A 療養上の世話における2群の事故のとらえ方と防止（総論） B 転倒・転落事故防止 C 摂食中の窒息・誤嚥事故防止 D 異食事故防止 E 入浴中の事故防止 第5章 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 A 業務領域をこえて共通する患者間違い B 間違いを誘発する多重課題、タイムプレッシャーと業務途中の中断 C 新人特有の危険な思い込みと行動パターン 第6章 医療安全とコミュニケーション A 不正確・不十分なコミュニケーションは事故の重要要因 B 事故防止のための医療職間のコミュニケーション C 医療事故防止のための患者とのコミュニケーション D 事故の未然防止上重要なコミュニケーション 第7章 看護師の労働安全衛生上の事故防止 A 職業感染 B 抗がん剤の曝露防止 C 放射線被曝 D ラテックスアレルギー E 院内暴力 第8章 組織的な安全管理体制への取り組み A 組織としての医療安全対策 B システムとしての事故防止の具体例 C 重大事故発生時の医療チームおよび組織の対応 第9章 医療安全対策の国内外の潮流 A わが国の医療安全対策の潮流 B 国外の医療安全対策の潮流と国際的連携 C 産業界から学ぶ—ヒューマン・ファクターズの取り入れ					
【テキスト／参考文献】 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[2] 医療安全 第1章～第7章					
【評価】 学科試験 筆記；100点をもって満点、60点をもって合格とし、60点未満を不合格とする					

分野（領域）	統合分野	科目名	看護管理		
単位（時間）	1（15時間）	開講時期	1年次	2年次	3年次
講師	外部講師				
科目目標	1. 患者の権利を守るための概念について理解を深めることができる。 2. 看護ケアの提供システムの種類と特徴、他職種との連携について理解する。 3. 人材資源のケアマネジメントについて、看護システムの種類や看護単位と合わせて労働環境の管理について整理することができる。 4. 看護実践の場と医療現場のしくみについて理解を深めることができる。				
【講義内容】 第1章 看護とケアマネジメント A 看護管理学とは B 看護におけるマネジメント 第2章 看護ケアのマネジメント A 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 B 患者の権利の尊重 C 安全管理 D チーム医療 E 看護業務の実践（日常業務のマネジメント） 第3章 看護職のキャリアマネジメント A キャリアとキャリア形成 B 看護職のキャリア形成 C 看護専門職としての成長（社会化） D タイムマネジメント E ストレスマネジメント 第4章 看護サービスのマネジメント A 看護サービスのマネジメント（組織として看護サービスをマネジメントする） B 組織目的達成のマネジメント（組織として目的を達成するためのマネジメント） C 看護サービス提供のしくみづくり D 人材のマネジメント E 施設・設備環境のマネジメント F 物品のマネジメント G 情報のマネジメント H 組織におけるリスクマネジメント I サービスの評価 第5章 マネジメントに必要な知識と技術 A マネジメントとは B 組織とマネジメント C リーダーシップとマネジメント D 組織の調整					
【テキスト／参考文献】 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 第1章～第5章					
【評価】 学科試験 筆記；100点をもって満点、60点をもって合格とし、60点未満を不合格とする					

分野（領域）	統合分野	科目名	統合看護技術
単位（時間）	1（45時間）	開講時期	1年次 2年次 3年次
講師	専任教員		
科目目標	1. 身体面の健康状態を把握するための観察・技術について理解し、習得する。 2. 健康障害を持つ対象に対し、安全・安楽な日常生活援助を理解し、習得する。		
【講義内容】 ・事例に対する事前学習 ・健康障害を持つ対象への日常生活の援助技術			
【テキスト／参考文献】 参考文献：系統看護学講座専門Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 NANDA－Ⅰ看護診断 定義と分類 2021－2023 経過別 看護過程の展開 学研			
【評価】 学科試験 実技；100点をもって満点、60点をもって合格とし、60点未満を不合格とする			

分野（領域）	統合分野	科目名	在宅看護総論
単位（時間）	1（15時間）	開講時期	1年次 2年次 3年次
講師	外部講師・専任教員		
科目目標	1. 在宅看護の現状を理解し、在宅看護を実践する看護師の役割について理解する。 2. 在宅看護の対象とその家族について理解する。 3. 在宅看護に関する諸制度について理解する。		
【講義内容】 第1章 在宅看護の目的と特徴 A 在宅看護の目ざすもの B 在宅看護における看護師の役割 第2章 在宅看護の対象者 A 対象者の特徴 B 住まい方と健康 C 家族 第3章 在宅療養の支援 A 在宅看護の提供方法 B 療養の場の移行 C 在宅看護の基本となるもの 第4章 在宅看護にかかわる法令・制度とその活用 A 訪問看護制度の創設と発展経緯 B 在宅看護にかかわる法令・制度 C 介護保険制度 D 訪問看護の制度 E 訪問看護サービスの提供 F ケアマネジメントと社会資源の活用 G 地域における多職種連携			
【テキスト／参考文献】 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤			
【評価】 学科試験 筆記；100点をもって満点、60点をもって合格とし、60点未満を不合格とする			